

千鹿頭山山頂への山ツツジ植栽事業

取り組みに至る背景・事業の目的

今から 40～50 年前の千鹿頭山は、松本市内外の小中学校の遠足で一度は訪れる地として、また、桜の名所、冬のスケート遊びの場として広く市民に親しまれた場所であったが、時代の変化に伴い、桜並木は切られ、池を巡る道は波の浸食で池中に消え、山麓は昼でも暗い藪山となっていた。

平成 4 年頃より、昔の姿を知る人から復興を願う声が多くなり、地元有志により県や市へ働きかけた結果、生活環境保全林事業として基本的な整備が実施された。

整備事業実施後の維持管理は地域住民主体で実施することとし、住民有志による「千鹿頭の緑と環境を守る会」が立ち上がり、5 ヵ年計画による植栽、環境整備事業を地域一体となって取り組んできた。

事業内容

5 ヵ年計画の最後の事業として、千鹿頭山山頂部に地元中学生との協働作業により山ツツジの植栽や、展望案内板などの設置を行うことにより、昔の美しい自然を取り戻すとともに、市内小中学校の遠足の目的地として、また、市民の憩いの場所として親しまれる場づくりを行った。



○山ツツジ植栽事業

苗 260 本の植栽を地域住民や開成中学校生徒の協力により実施した。

○山頂部への案内板設置

北アルプスや松本市街の案内図を設置した。作画は開成中学校美術部生徒が行った。

事業効果

千鹿頭池への手づくりイカダ設置事業の実施などを含めた本事業の実施状況が、テレビや新聞で報道されたこともあり、他地域から訪れる市民の数が多くなった。

また、これらの事業を通じて地域住民の一体感が醸成され、日常の清掃作業等に多くの住民が参加するようになった。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取り組みなど

○苦勞した点

より多くの住民、特に小中学生の参加を可能にするよう、地域小中学校や P T A との調整に苦勞した。

○今後の取り組み

最近の学校教育は安全管理面からも自然環境との接触を妨げている面があるが、今後も小中学生との協働作業により地域の自然環境の素晴らしさを伝えていきたいと考えている。

平成 20 年度は千鹿頭にホテルが舞う環境づくりを目指して、息の長い取り組みを始めたいと考えている。

【選定のポイント】

地域のコミュニケーションの場づくりと、次世代を担う小中学生の参加を得るなど環境保全の後継者育成につながった。

団体名	千鹿頭の緑と環境を守る会 (松本市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	百瀬和彦 0263-27-2295	事業費	495,584円
		支援金額	416,000円